



第十二回静岡大会

部会報告

第一部会、第二部会に於て全仏より提案された「われわれ仏教徒は仏教文化の国際的交流を図るとともに国内においては、全一仏教運動組織化のための実行策を強力に推進しよう」という総務、国際、組織、文化の各局と直接関係のある十九議題が審議され、第三部会、第四部会の独立部会には各二議題ずつが付託審議された。

第一部会

日時 六月一日午後一時十五分〜五時

場所 県民会館ホール

議案 第二、六、八、九、十一、十二、一、二、二十一、二十二、二十三の計十議案

部会長 栗本俊道、白山亮一、

議長 丹羽廉芳、杉本良智、

齊院絶三、望月舜堂、

山崎軌道、結城儀郎、

藤田広道、熊野竜夫、

新美孝道

本部 黒田白純、岩野真雄、

若本昭典、別所弘因、

小瀬川亮晃、古宇田亮文

参加者 三〇〇名

○部会開始前に鹿内氏より「全仏は議決された案件は必ず実行に移せ」との強い要望があり、これに対し栗本俊道部会長は「内容により実行に移すよう全仏に依頼する」との答弁があり第一部会が開会された。

るかその具体的方途如何。

曹洞宗 山田義道

これについて提案者より三つのポイントの説明があった。即ち、①各宗団の教線拡張は全仏の伸展である。②各個別寺院の伸展は経済的基礎の充実に外ならぬ。③一宗団、一県仏でなくて各宗各派に共通せる具体案を全仏がまとめあげてこれを全国的に普及させよ。

質疑一、二あるもこれに対し全仏は徹底化を約束するということで採択された。



(開会式で全国民の平和を祈る全仏会長)

六号 創価学会対策について

仏教同 岡本 薫

これについては大きな期待が寄せられた、提案者は①創価学会の邪教性について②創価学会打倒の義務性について③創価学会打倒の方策について三つを力説し特に打倒の方策については、新聞、雑誌等のマスコミ機関を説得して協力してもらおう。

二、仏教系の政治家にも働きかけ、信教の自由侵犯を理由に布教禁止の運動をおこす。三、神道、基督教とも協力して総攻撃の運動を展開する。四、破邪顕正の大会を開き、デモ行進を行ない、また街頭に出てビラを配る。五、選挙は何党でも学会と戦うものに協力して、学会の進出を阻止する。六、以上の活動をするため寺社が中心となって、信徒を団結させなければならぬ。七、破邪をやりながら正法の興隆に真剣に努力せよ。

け、信教の自由侵犯を理由に布教禁止の運動をおこす。三、神道、基督教とも協力して総攻撃の運動を展開する。四、破邪顕正の大会を開き、デモ行進を行ない、また街頭に出てビラを配る。五、選挙は何党でも学会と戦うものに協力して、学会の進出を阻止する。六、以上の活動をするため寺社が中心となって、信徒を団結させなければならぬ。七、破邪をやりながら正法の興隆に真剣に努力せよ。

これに対し新編仏仏の福井氏より「全仏は今日迄創価学会対策を如何に具体化せしめたか」と質疑あり、全仏側は「昨年八月に「創価学会の批判的説明」を刊行を実施している」と答えた。更にこれに対し福井氏は「全仏は財閥より浄財を得て言論戦、文書戦その他、僧俗一体となって実施すべし」と述べた。

この福井氏の発言に対して、静岡県仏の春田氏より「文書戦も大いに結構だが、あまりむづかしい文書を書いてもそんなものを読む人はおらぬ、もっと安易な方策を立てよ」と反論があったが部会長は「一議題二〇分間の質疑であるのでこの辺で次の議題に移ると発言があると曹洞宗の松浦氏より「こうした重大な問題に対して二〇分とは何事。明日迄かかっても討論せよ」と発言があったが、この問題は仏教界あげての大問題というところで、今後の実行策は全仏に一任するというところで、全仏的

に採択決定をされた。一、政治の中に仏教を(殊に聖徳太子の憲法精神を)

真宗木辺派 西 信明

聖徳太子憲法こそ一宗一派及び全日本人に適している。東洋倫理道徳の加味された憲法を訴え参加者の全員の見解の一致を見た。

八号、「精神復興、仏教興隆」の救国運動を全国一斉(毎月八日)に起そう。仏教同野野獲麟

現在、政治不信と社会不安はいよいよ深く太平ムードの陰に異情犯罪は激増し、理想喪失による精神的危機はますますつのる現状にかんがみ仏教徒の使命を敢行すべく毎月八日(釈尊降誕)を「精神復興、仏教興隆」の日と定め、全国の寺は一斉に鐘を鳴らし、ポスターを貼り、幟を立て(都市にはアドバルーンを上げ)宣伝カー等を使用し、寺を中心に精神的、人づくりの倫理、仏教人生観による祖国愛、隣人愛、等の布教活動を行う。

この意見に満場一致採択された。二十一号 仏教徒はこぞって仏教政治同盟に加入せよ。

仏教同志クラブ 摩尼清之

これについて摩尼氏はNHKに三十一名勤務した経験から、今日の政界は実力者八名の中に五十名の次期者があり、あと四百何十名かの残りは陣笠である。我々はこうした人達に日本の政治をまかされぬ。

世界平和、人類福祉をめざす政治を推進し、実現せしむるため仏政同に参加を望むとの提案は参加者全員の意見の一致を見て採択された。

九号 意識読誦聖典の編さん急務を訴う。融通念仏宗 滝野弘澄

「日本人には日本語の聖典を」従来の漢訳聖典読誦は、それなりに有難い所はあるであろうが聞く者にわかる経典、読む者にわかる経典でなければ意味がなからうと信ずる。

現在、仏教徒が原典でない漢訳に執着していることは時代におくれをとる一つの原因であるが、わかりやすく親しめる、人生問題の解決を指示する索引のある聖典が必要である。

そこで全仏は多くの識者学者特に一線活動の読誦当事者の意見の集約によって、権威ある統一化された(個々別々な一人よがりの意識でない)読んで庄重、聞いて有難い、どの宗門にも共通した、読誦意識聖典の編さん発行実現を提案する。

この問題についての提案は静岡大会に於ても採択されたが本年は是非事案の具体化をうながしたいと提案があり、広島西氏より、「全仏は今後善処するの場当りではいかぬ」と質疑あり、全仏文化局長は「良く了解した」との討論で全面的に採択をみた。

十一号 社会福祉事業における宗教の社会化問題。

福岡県仏 二十二鉄鏡

相手を拝む心にて対扱されたい。採択決定。

十六号 教団における勤労青少年対策 大谷派 永井利正

宗教家は労務につく現場の指導者、青年の個々の精神的心構えをもたせなくてはならないと主張し参加者の意見の一致を見て採択決定した。

二十三号 花まつりについて。